【令和６年２月 28 日 神戸新聞 但馬版】

生野高原リゾート 「関西の軽井沢」再生に挑戦

但馬産業大賞に選定

但馬米穀 廃校をスマート農業拠点に

県民局 地域活性化に貢献 たたえる

但馬県民局は、優れた技術やサービスを生かし、地域の活性化に貢献した企業などを表彰する2023年度の「但馬産業大賞」に、生野高原リゾート（朝来市）と但馬米穀（豊岡市）の2社・団体を選んだ。（阿部江利）

同賞は07年に創設され、技術▽自然との共生▽ツーリズム▽経営革新―の4部門で86社・団体が表彰を受けてきた。

「但馬産業大賞」を受けた但馬米穀の木村嘉男社長（左）と、生野高原に関わる1級建築士の庄司圭介さん＝県豊岡総合庁舎

ツーリズム部門では、かつて「関西の軽井沢」と呼ばれた生野高原リゾートの再生に挑む取り組みが評価された。建築家や金融機関などが連携し、放置された別荘をデザインの力でおしゃれな貸別荘として生まれ変わらせ、現在では20棟を運用。カフェやキャンピングカー向け施設なども開業し、若い世代など新たな客層の開拓にも成功している。

経営革新部門で選ばれた但馬米穀は、廃校になった神河町の越知谷小学校を同町から借り、スマート農業の研究施設やキャンプ・グランピング施設として活用。「廃校を利用した新たな農業との出合いの場」として、同町のほか埼玉県でも事業を展開する。キャンプ客らも、ドローン操縦や、魚と野菜を同時に育てる水耕栽培など近未来の農業を見学でき、人気という。

技術、自然との共生の2部門で表彰の企業・団体はなかった。6日に県豊岡総合庁舎で表彰式があり、観光業としての裾野の広さや、過疎地の復活などへの期待が高いなどと講評された。生野高原に関わる1級建築士の庄司圭介さんは「デザインの力で人を呼び込む『デザイン経営』の良い事例になればうれしい」と話し、但馬米穀の木村嘉男社長も「子どもから高齢者まで幅広い世代に今の農業を見てもらい、農業の裾野も広げたい」と意気込みを語った。